

第 107 号
平成 30 年
2 月

HPに 創刊号から
連載中

もう一つの道

情報は、うのみにせず、注意
深く徐々に試して下さい。

山田整骨院
熊本市中央区出水 4-25-1
096-364-7611
<http://yamadasu.com/>
視力回復
<http://facebook.com/mejikara>
妊娠推進力 不妊解決
<http://facebook.com/sizennjyutai>

☆このごろ思うこと・・・

万病一毒

静岡西会 尾藤 章 月刊西医学 昭和 50 年 6 月

○ 名医吉益東洞先生

吉益東洞先生は、幕末のお医者さまと聞いておりますが、その先生のお言葉の中に「万病は一毒なり。毒去って疾なし」というのがあるそうです。

一毒とは、便秘のことだそうです。いっさいの病気は、その原因が便秘にあり、その便秘を清算すれば、病は治る。いいかえれば、腸を清潔にしていれば、病気等はしないものだ、という意味だと思います。

徳川時代の末期に、日本にこんな偉いお医者さんがあったとは、まったく驚きのほかありません。まったく、便秘が病の根拠地であり震源地であり、張本人であります。

癌の人も、脳溢血の人も、脳軟化症の人も白内障の人も、バゼドー氏病の人も、いずれもみな、一様に便秘しております。

病気になるのには、食物、栄養の過不足か、空気、水等の公害か、精神的の異変か何かの原因が必ずあるであろうが、結果的には病人は、みな、便秘していると申せましょう。吉益先生は実に偉い名医であったと思います。

○ 宿便の謎

現代医学にたずさわる教授や医師の数は、ずいぶんたくさんあるであろうと思いますが、それらの先生が、果たして宿便のことをご存じで、この対策に当たってられるか否か、私は甚だ疑問を持つものであります。

断食療法をやれば、バケツ一杯も出る宿便を、医師が知らないとは、いったいどういうわけでしょう。私はかつて梶尾先生、渡辺先生にお尋ねしたことがあります。

「いったい大学では、宿便について講義がありますか」「いいえ」「大学生の読む教科書のような本には、宿便のことを書いてありますか」「ありません。ただし特殊な本の中に、少しぐらい、宿便のことを書いたものはあります」と。

ですから、現代のお医者さんが、宿便に対してほとんど智識もなく、その対策を講じないのも、無理とはいえないと思います。

大学の教授でも癌研の所長さんでも、遠慮なく癌で死んだり、脳溢血で倒れるのですから罪はありませんが、それでは、あまりにも情けないと思います。

私のような素人には、腸の切開、あるいは大腸の除去でもする手術の際には、いやでも腸壁にこびりついている宿便を発見せずにはいられないだろうと思われるのですが、摩訶不思議、断食療法をやれば、バケツ一杯ほども排泄され、手術すると腸内からパット姿を消す、というものでしょうが、どうかこの点をご存じのおかたは、私にお教えいただきたいと存じます。

3、4年前、幸か不幸か、私の近親者の妻が、ポリープができて、大腸を全部切り、除去致しました。

私は、宿便の謎がありますので、ぜひとも手術を見たいと熱望致しましたが、私の願いは容れられず、手術室の外で待っていました。

手術が終わりますと、すぐ主治医から招かれて室にはいり、切り取ったばかりの大腸を切り開いたものを、目の前で見せていただきましたし、指先で触れてもみました。

どこにも宿便らしいものも、宿便がこびり着いていたと思われるこん跡も見当たりませんでした。

概して桜色で、きれいで、食べたらおいしそうにも思われました。ただ、小さなポリープといわれるものが、大腸の内面にたくさん（無数）にできておりました。

大腸切除の大手術は、3月のはじめでして月末には退院の予定でしたが、その退院予定の4、5日前になって、大腹痛を起こしました。主治医は、びっくりして「も一度腹を切って、中を検べる」といいました。

私は「先生、3日待ってください。責任は私が取りますから」というわけで、先生がまた、腹を切って内部を検べるというのを3日延ばしてもらいました。

初めの2日間は、身の置き所がないといった工合に苦しみましたが、3日目は、だいぶ楽になり、特に午後は、ずっと安静になりました。

午後4時頃、一人で立って歩いて便所に行きましたところ、皿に一杯くらい、黒いコールタールのような便が出ました。タイルの便器に落ちた便は水洗の水をいくら出しても流れ出そうとはせず、仕方なく紙を沢山使用して無理矢理、水といっしょに流してやりましたが、排便と同時に腹痛も腰痛も夢のように消え去りました。主治医に、このことを話しますと、「それは胆汁です」と「胆汁にしては、あまりにも多過ぎます。もし胆汁だとすれば、胆のうがたいへん異状で悪かったと思えますが」「いや、胆のうも膵臓も、脾臓もどこも悪くはなかった」「それでは変ですね」「変でも何でも、出たには仕方ない」ということになりました。

この患者は、なんとか西医学で治そうと努め、入院前10月、11月、12月、と毎月1週間宛断食療法をやりまして、それに風療法。温冷浴も毎日2、3回実行しました。

それでもポリープが快癒しませんでしたので、とうとう権威のある病院に入院して手術を受けたのですが、手術時も何日か断食をしたわけです。それが小腸に溜った宿便が排泄されたものと私はおもいます。

2日半日ばかり苦しんだのは、小腸の腸壁から宿便の離れる痛みであり、排泄後は、日本晴れのように気分がよくなったのは、どうしても小腸にも宿便は溜まるものであり、断食すれば、排泄するものであるということがわかりました。私にはたいへん嬉しい発見です。

○ 腸チブスでは断食

毎年のように、9月の敬老に日には、長寿者が祝福されます。

長寿者の中には、若い頃腸チブスを患った人が多いことも大変おもしろいことです。明治末期から、大正年代には、腸チブス患者が多く、法定伝染病ですので、患者は、隔離病舎（避病院）に収容されました。子供心にも私は腸チブスが恐ろしく思いました。

実は、私の母も、数え年35歳で腸チブスに罹り、避病院で亡くなったのです。私の数え年16歳の時です。

現代では腸チブスは殆んど影をひそめ、よい薬もできたことと思いますが、往時に、よい薬もなく、腸チブスは、自然に治るのを待つばかり、その間は、断食を致しました。

死んでしまったのでは、元も子もなくなりますが、治ったものは、断食療法で腸を清算致したわけで。そして今日長寿で祝福を受けるわけですが、むかし腸チブスで断食したことは忘れてしまい、訪れた新聞記者やテレビ記者に答えて「私は野菜が好きで」「私は魚が好きで、それが好きで、それで無病で長生き致しました」等と語っているようです。

私は敢えて「腸チブスに罹って断食するように」と申すわけではありませんが、正しい断食療法によって宿便を一掃すれば、病気もなくなるし、100歳の寿命もさして困難ではないと思うのです。

以下略

あ と が き

私が医療の世界に入ったのは「断食体験者108人の報告」を読んだからです。そこには断食で宿便を出して脳卒中の人が完全に元に戻った体験談が載っていました。こんなに良くなるのかとすごいショックをうけました。自分でも1週間の断食を体験し宿便が出て心身の状態が劇的に変化したことを感じました。頭が冴えて今勉強すれば何でも頭に入らるだろうと思いました。実際患者さんのお子さんが難病のため断食をして、その後成績が急上昇したと話されていました。私の父は80歳の時脳溢血を起こして3週間の救急医療の後、断食医療を受けて洗面器一杯の便が出て言葉が出るようになりました。それ程、便の毒は怖いということです。